

鳥羽市・サンタバーバラ市学生交換派遣事業

ホームステイ体験記

総務課秘書係 ☎ 25-1105

市内の中学生4人が7月26日～8月6日にかけて姉妹都市サンタバーバラ市を訪れ、8月8日～18日にそれぞれの家庭がサンタバーバラ市の中学生を受け入れました。すばらしい体験をした中学生のみなさんにホームステイ先での体験について感想を語っていただきました。

サンタバーバラに行って 長岡中学校2年 世古脩人

僕にはフィエスタというお祭りがあり、フィエスタのパレードの服も独特だということに気がきました。

僕は、サンタバーバラに行つて、とてもいい人生経験ができました。最初は、とても緊張して英語を話す事が少ししかできなかったけれど、ケイデン君や彼の家族みんなが僕のしたいことなどを優しく聞いてくれたりしたので、段々気持ちほぐれ、仲良く楽しく会話ができるようになっていきました。ケイデン君と一緒に朝からビーチに行つてラグビーをしたり、僕がしたかったランニングなどをしました。

僕はサンタバーバラでさまざまな事を学びました。高速道路の車線が日本よりも多いことや、靴を脱がないでそのまま土足で家に入る所が日本と違うということを経験しました。他にも、サンタバーバ

ラにはフィエスタというお祭りがあり、フィエスタのパレードの服も独特だということに気がきました。

僕はサンタバーバラでたくさん楽しむことができました。みんなとウォーターパークで一緒に泳いだり、大きなサイズのハンバーガーやスパゲツティなどを食べました。

また、ウエルカムプールパーティーで虎太郎君と一緒にピコ太郎をして、アンコールをもらつてとても盛り上がりました。その後、ケイデン君やパーティーの参加者に「面白かったよ」とか、「上手だったね」とほめてもらい、とても楽しめました。

ケイデン君の家でも、僕がステーキを食べたいといったら、ステーキがおいしいレストランに連れて行ってくれたり、ミュージックコンサートやドジャーススタジアムにも

行くことができ、「こんなに贅沢なことをしていただきとても幸せだ」と思いました。ハヤシダファミリーにはとても感謝しています。

住んでいる国や文化は違つても、気持ちが通じ合えたことが本当に嬉しかったです。たくさんのかたと仲良くなれて、いい人生経験ができたと思います。ケイデン君に「またサンタバーバラに行くよ」と約束したので、次にサンタバーバラへ行く時はもっと英語を勉強して、ケイデン君や、ジュリーやマリーに会ってお礼をきちんと言おうと思います。またいつか行けることを楽しみにがんばりたいです。

僕にこんなすばらしい体験をさせてくれたみなさんに感謝します。



最高の夏休み 長岡中学校1年 上村虎太郎

ぼくは、サンタバーバラに行つてたくさん体験をし、学べて本当に良かったと思えました。

出発の日、英語のことや外国のこと、ホストファミリーのことなどさまざまな不安がありました。しかし、サンタバーバラでホストファミリーのジェームス君や彼の家族が温かく迎えてくれて、そして、まだ一年生で英語があまりわからないぼくに、ゆつくりわかりやすく話してくれてとても嬉しかったです。

ぼくが一番楽しかったこと

は、みんなで遊園地へ行ったことです。日本にはない乗り物ばかりで時間を忘れてみんな楽しんでました。観覧車からパークの夜景が見えてとてもきれいだつたので、今でもすっかり覚えてます。帰り道、紙ふぶぎが入ったたまごをみんなで頭にぶつけて遊びました。あの遊園地以上にキラキラした時間が過ごせました。

アメリカの食べ物といえばハンバーガーと思つて楽しみにしてました。初日にハンバーガーを食べて日本にはないおいしさで感動しました。肉が香ばしくてジュシーでとてもおいしかったです。

サンタバーバラでは、ジェームス君という新しい友達ができました。ジェームス君はぼくのサンタバーバラでの思い出に欠かせない人です。ぼくは、ジェームス君がホストファミリーで本当によかったです。ジェームス君に出会えてよかったです。だからまたサンタバーバラに行こうと思います。

サンタバーバラに行った経験は、ぼくを成長させてくれました。自信がない英語でも話しかけてみようと思う勇氣を出せました。涼しくて、乾

燥した気候で、爽やかな風がふいて、ヤシの木が立ち並ぶあの町を絶対に忘れません。そして、サンタバーバラへ行くために協力してくれた人々に感謝したいです。最高の夏休みをありがとうございました。



サンタバーバラがくれた夏 皇學館中学校3年 浅原由衣

中学校生活最後の夏・・・私は、サンタバーバラの派遣事業に参加することができた。この企画でかぞえきれない貴重な体験をさせてもらった。まず最初にぶつかった壁は、日本との水の違いだった。初めて海外の水を飲んだとき、絶対にこの飲料水で生活するのは無理だと思った。だが、

そのことを数日伝えることができずにいた。それは言葉という壁があったから。ある日夕食で外食に連れて行ってもらった。そこに出てきた水は、なぜかおいしく感じた。レモンが入っていたからだった。私はなんとか伝えようとした。「水にレモンを入れたい」と二、三回ほど繰り返した。その後、家に帰るとホストマザーが大量のレモンを買ってきてくれていた。私は嬉しくて涙が出そうだった。そのとき初めて私の思いを伝えることができて良かったと感じた。

日本と似ているというよりも、全く変わらない部分もあった。それは家族への愛と温かさだ。私が到着したときから本当の娘のように扱ってくれた。沢山のことを教えてくれた。日本の文化の話、学校の話、自身の家族の話も真剣に聞いてくれた。近所の子が私を遊びに誘ってくれたこともあった。少しホームシックになつてしまったとき、家族一人一人が「大丈夫？大丈夫？」と声をかけてくれた。この温かさは本当に同じだと思った。

このホームステイで学んだことは、私の中で沢山ある。初対面であり異学年でもあつた



た日本人四人で作り上げた最高の絆。現地へ行つてのコミュニケーション能力。大切なのは単語を並べるのではなく、伝えようとする気持ち。私の一番苦手だった英語は大きく前に進むことができたと思つている。そして、次サンタバーバラに行くときはもつと英語力を上昇させて行きたい。この夏休みの思い出は私にとつて忘れられない、かけがえないものとなった。

サンタバーバラ体験記 鳥羽東中学校2年 中島藤子

私は、このプログラムに参加しようか締切いっぱいまで悩んでいました。でもこのプログラムが終わった後、心からこのプログラムに参加する

ことができても良かったなと思いましたが、言葉の面で多少の不安があつたものの、大きな不安はなく、楽しみでいっぱいでした。サンタバーバラに着くとホストファミリーが温かく迎えてくれました。はじめは本当に緊張して、「自分の英語で通じるのかな」と不安になりました。でも、ヨークファミリーののおかげで「とりあえず何か言ってみよう」という気持ちになり、本当に沢山の人とコミュニケーションがとれました。ホームステイ先のミアはアニメが好きで、ワンピースと一緒に見たり、日本の漫画の話で盛り上がりました。お母さんのスーザンは、私の話を聞いてくれたり、相談に乗ってくれたりして、本当に頼りになる優しい人でした。

サンタバーバラでは、日本ではできない沢山の経験もしました。その中で印象的だったものは、「カスクローネ作り」です。卵の中からパンにスパイスを入れたものをつくりました。それを、フィエスタというお祭りで人にぶつけて、お祭りをお祝いします。八人でそのカスクローネをぶつけあつたのは最高の思い出

です。出発前日の夜、リテイの部屋で洋楽を流してみんなでさわいだことも心に残っています。日本でやつたら怒られそうなお祭りだったので余計に楽しかったです。

私は、アメリカに行つて「言葉の壁」というものが存在しないと思いました。大切なことは「一人に話しかける勇氣」だと思いましたが、もちろん知識も必要ですが、それ以上に自分からアクションを起こさないと何も始まらないと感じました。

今回のプログラムで、最高の仲間に出会うことができ、本当に嬉しかったです。八人でまた集まれる日がくることを願っています。

